

〔重修本草綱目啓蒙^五〕石炭^略○中

石炭ノ上品ニシテ器物ニ作ル者多クハ木タチノ石炭ナリ、木タチノモノハ、別ニ漢名木煤雲南通志ト云、雲南通志云、石炭一種狀如樹而有條理者謂木煤、即チ奥州大隈川、及ビ同國棚倉ノ埋木、豫州ヨリ出ル所ノ扶桑木皆同物ナリ、又阿州麻植郡森藤村ニモ産ス、地ヲ掘ルコト二三尺、或ハ五六尺、其厚サ一尺許ニシテ横行スルコト數十間ニ及ブ、コノ物地中ニテ實ヲ結ブ、黑色ニシテ長サ六七分、徑リ四五分、大抵棗子ノ大ニシテ、豎ニ六稜アリテ前後尖ル、其質鬆疏ニシテ、櫟炭ノ如シ、奇品ナリ、

〔筆のすさび〕一異木 讃州金毘羅より二十町許の處、某村に異樹あり、幹枝は桃にして葉は櫻なり、花は梅なり、實もまた桃なりといふ、

〔草木奇品家雅見^下〕享保の初年、華舶一種の奇木を齎し、官府に貢す、奇特の良品也とて、染井の種樹家花家伊兵衛なるものに台命を下し給はり、接木せしめ給ふ、然るに未嘗知奇樹なれば、逡巡して決せざりしが、熟その木の太山楓といふものに似たるを以て、これを官園に移し、砧として以て接立ければ、一樹をか、す生育して欣榮す、後十二年ひろく世に蕃殖せしめんと、一株を伊兵衛に賜ふ、今其家に存して既數仞に及べりと云、

亦榕椿は古白花山茶を珍玩せし頃、山茶の中より一種の變葉を生ず、其狀枸骨の如く、大鋸齒あり、依て榕山茶と名付て、今其種世上に往々是あり、元彼家より産すと云、

因に云、此伊兵衛は地錦抄の作者也、されば培やしなひに長じ、今子孫に傳へて此道を盛にせり、